

令和2年度に実施した確認調査

一掛川城跡（大日本報徳社敷地内）－

1 位 置 掛川市掛川

2 調査時期 令和2年9月～10月

3 内 容

旧遠江国報徳社公会堂（大日本報徳社大講堂）の防火設備設置工事に伴い、防火水槽設置部分の確認調査を実施しました。7m四方の範囲を調査したところ、アスファルト舗装のすぐ下から江戸時代の井戸が発見されました。井戸は直径約1.4m、深さ16.8mの石積みの井戸で、一番上には石の井戸枠があり、その上にコンクリートが載せられていました。

江戸時代の絵図や昭和初めの建物配置図にもこの井戸は記されており、この場所がお城だった頃から、長い間使われていた井戸だったと考えられます。防火水槽の形を変更したため、井戸は保存され、今も大日本報徳社の駐車場で見学することができます。



井戸検出状況



井戸内部の様子(上)



井戸内部の様子(下)

令和2年度に実施した保存処理遺物

一原横穴群・瀬戸山I遺跡出土鉄製品－

1 出土地点 掛川市上屋敷・高田

2 調査期間 原横穴群 平成6～7年

瀬戸山I遺跡 令和元年

3 内 容

原横穴群は、古墳時代後期に造られた横穴墓で11基が調査されました。調査では、須恵器の他、太刀、馬具、刀子、耳飾りなど鉄製品が出土しました。今回はその一部の馬具の保存処理を行いました。

また、瀬戸山I遺跡から出土した鉄鋌1点の保存処理を行いました。



馬具(櫛)

第17回



出土文化財展

日時：令和3年6月30日（水）～7月11日（日）

場所：掛川市立中央図書館 1階生涯学習ホール

令和2年度に実施した本発掘調査

一中原遺跡（第9次）－

1 位 置 掛川市高田

2 調査期間 令和2年12月～令和3年2月

3 調査面積 1,350 m²

4 内 容

中原遺跡は、縄文時代中期（約5,000年前）の遺跡です。今回は、建物の建設が計画され遺跡の消滅が免れないこととなったため、記録保存のための発掘調査を行いました。

調査では、直径約2.5mと4mの竪穴住居跡2軒、小穴などが確認されました。住居跡からは、煮炊きに使用した深鉢形土器や石匙、石錐が出土しました。

出土した土器は、関東や西日本の影響を受けた土器で、装飾性に富んだものです。遠州地域では、これだけ形が良好に残る例は珍しく、貴重な発見となりました。



調査区全景



竪穴住跡の土器が出土した様子



深鉢形土器が出土した様子

—瀬戸山 I 遺跡（8次）—

- 位置 掛川市高田
- 調査期間 令和2年6月～12月
- 調査面積 1,500 m²
- 内容

瀬戸山 I 遺跡は、縄文時代早期（約1万年前）、縄文時代中期から後期（約4,000年前）、弥生時代後期（1,800年前）から古墳時代前期（約1,700年前）の遺跡です。畑の造成により遺跡の消滅が免れないことから、記録保存のための本発掘調査を行いました。

令和元年度に、今回の調査地点の北側を調査し、縄文時代後期の竪穴住居跡や小穴、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡60軒、掘立柱建物跡8棟などを発見しました。

令和2年度は、縄文時代早期の小穴と弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡45軒、掘立柱建物跡3棟、土器廃棄穴などが見つかりました。

縄文時代前期の小穴は、直径約15cmの大きさで、押型文土器と呼ばれる土器が出土しました。この時期の土器が穴の中から出土されることは大変珍しく、貴重な発見といえます。

弥生時代後期の竪穴住居跡は、長径4～7mの橢円形で、中央付近には煮炊きした炉がありました。炉の周囲は広く固くたたきしめられ、床が張られていました。また、住居跡からは、食物を貯蔵する壺、煮炊きをする壺、



縄文時代早期の土器出土の様子



弥生時代後期の竪穴住居跡



煮炊きをした壺



壺の出土した様子



壊れた状況で出土した壺

盛り付け用の高杯が出土しました。住居跡は、重なり合って確認され、同じ場所で建て替えが行われていたと考えられます。

古墳時代前期の竪穴住居跡は、5m四方の隅丸方形で弥生時代の竪穴住居跡と同じ場所から確認されました。掘立柱建物跡は、柱間が1間×2間が1棟、1間×3間が2棟で倉庫として使用されていたと考えられます。住居跡からは、ガラス小玉が発見されています。

この他、調査で遺構は確認されませんでしたが、古墳時代後期の鉄鍔が発見されており、周辺では、この時代にも人々が生活していたことがわかりました。



土器廃棄穴



重なり合う竪穴住居跡



発掘作業風景



掘立柱建物跡



調査区西側 完掘



調査区東側 完掘